令和７年度　自己評価報告書

令和８年３月
岐阜県立多治見看護専門学校

１　本校の概要・・・・資料1～3

本校は、以下の教育理念の下、学生教育を実施している。

「生命の尊厳と人間愛を基盤として、対象を思いやる豊かな人間性を育み、専門知識・技術を教授し、社会のニーズに応え得る能力を養い、安全で安心な医療を担う専門職業人を育成します。」

２　令和８年度　組織目標及び実績・・・・資料4～6・19・27・30・33・39・41

（1）教育環境の整備

・各種アンケート調査を計画に沿って実施し、学生の意見に対して教務会等で共有し、学生の要望については適宜フィードバックを行った。

・ストレスチェックを年3回実施した。結果についてはスクールカウンセラーと共有し、希死念慮のある学生については速やかにカウンセリングをすすめた。また、学生の対応についてもスクールカウンセラーからアドバイスをもらい、職員全体で統一した対応ができるよう心掛けた。

・ハラスメントについては「ハラスメント意識調査」を実施した。特に気になる回答はみられなかった。ハラスメントに対する当校の考え方については、ガイダンス等で学生・ご家族に説明している。

・職員対象としての研修として、指導困難な学生の対応について、当校のスクールカウンセラーに講義を依頼し10月に受講した。また12月に県立3校をつないでのモラル研修も受講した。

・学生対象に県立3校をつないでのゲートキーパー研修を行った。また岐阜県警の職員を招き、サイバーセキュリティ研修を行った。

・障害のある学生支援のための「障害学生支援規程」及び「障害学生支援に関するガイドラインを運用し1名の申請があったため対応を行った。

・全学年保護者授業参観を行い、1年生8名、2年生3名、3年生13名のご家族の参加があった。学校、学生の様子が良くわかり今後も参加を希望する意見が多かったため今後も継続する。

（2）優秀な学生の確保

・直接高校に訪問した件数　　２６校
・電話で、自校をＰＲした件数　　４校
・入学案内を送付した件数　　５１校
・進学相談会　　１９会場へ参加
・母校訪問　　５校直接訪問　５校後日郵送
・対面式オープンキャンパス　　７５名の参加

（3）自己点検評価委員会での意見の活用

・令和7年7月22日第1回学校運営評価会議を開催、外部委員5名に評価をいただいた。

・令和7年9月に第2回学校運営評価会議を書面で開催し、結果をホームページで公表した。

（4）予算執行・学生生活支援(総務課)

・総務課の働きかけにより、R8年トイレ改修作業が実施予定である。

・限られた予算の中で、ノートパソコン１台(14万)、タブレット（16万)、OfficeHomeソフト６台（16万）を購入した。

・日本学生支援機構奨学金は多子世帯の給付が拡充し、19名の事務手続きを行っている。岐阜県看護学生修学資金貸与については1名が希望し貸し付けが認められた。

（5）カリキュラムの適正な運用

・新カリキュラムで導入した、成人看護学実習Ⅰの緩和ケア病棟実習について、カリキュラム検討会議を行い、目的・目標に沿って見直しを行った。

・カリキュラム評価については総括の活用とともに、段階別到達目標の到達度を、卒業時・卒後１年目・就職先職員にアンケートをとることで評価している。ディプロマポリシーの到達度を客観的に評価するために、どの様な方法を用いて行うかについては次年度、検討が必要である。

（6）教員の教育活動の充実、看護実践能力の維持・向上

・授業研究委員会が中心となり、当校での多職種連携教育の実際について東濃地区の「看護実践報告会」で発表を行った。臨床のスタッフに看護基礎教育の実際について理解してもらうきっかけとなった。
・教員全員が学会や研修会に参加し、教務会時に伝達講習を行うことができた。
・短期研修は、岐阜県立多治見病院で１名、訪問看護ステーションで１名が実施した。
・実習調整者が中心となり、実習の好事例、困難事例の検討会、インシデント検討会を行い、効果的な実習指導について考えることができた。

（7）実習施設との連携強化

・実習前後に全ての実習施設と連絡会議を行い、調整を図った。主たる実習施設とは、年５回の連絡会議に加えて「がやがや会議」を開催し、現在の学生の傾向を共有し、指導方法について意見交換を行った。今後も実習指導者と密に連携を図りながら、お互いの信頼関係の下実習が継続できるようしていく。

（8）校務支援システムの運用の拡大

・時間割を Web ポータルにのせるなどペーパーレス化を図った。県立３校で学籍簿、認定会議資料について ICT 委員を中心に共有し、運用拡大を図っている。

3　学校評価項目の達成及び取り組み状況

1）学校経営

資料 4～6・11～12

評　価　項　目	評価点
・学校のビジョンと組織目標を策定し、その目標が教職員に理解されているか。 ・組織目標に対する評価を実施し、結果を教職員に周知し次年度の目標につなげているか。 ・学校運営評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知し外部にも公表している。評価結果をもとに改善計画を策定しているか。 ・管理職のリーダーシップのもと、係長又は教務主任が部署をまとめ問題解決に当たっているか。	４．５ (R6 年度 4.6)

評価点：よい５　ややよい４　普通３　やや不十分２　不十分１

・組織目標は職員会議で周知し、全職員で連携しながら問題解決にあたることができた。
・学校評価を９月と２月の２回実施した。評価結果は職員会議で周知し、中間評価結果から後期の学校運営を再考し、2 月の評価結果を次年度の学校運営の目標に繋げた。また学生の学校評価の結果を、職員会議で周知すし、学校運営計画に繋げた。また必要時はミーティングや各種委員会で情報共有をして問題解決に努めている。
・学校評価結果はホームページで公表した。

2）学科運営

資料 13～15・25

評　価　項　目	評価点
・卒業時に持つべき資質をディプロマポリシー、教育目標に明示するとともに、卒業時の到達状況を分析しているか。 ・学習内容は教育理念・教育目標と一貫性があり時代の要請に応える内容になっているか。 ・授業計画(シラバス)が作成され教育課程との整合性があり、学生が授業内容を理解できるようにしているか。 ・効果的な授業運営を図るため適切に時間割を調整しているか。 ・授業内容や指導方法が学生レベルに合うよう工夫・改善しているか。	４．４ (R6 年度 4.3)

・学生の単位取得に向けた支援を実施しているか。 ・実習目標が達成されるよう実習環境が整備されているか。 ・実習指導者と教員(実習指導教員)の役割を明確にし、互いに協力し実習指導にあたる体制があるか。 ・学生に修了認定のための評価基準と方法を公表しており、評価について公平性・妥当性が保たれているか。 ・実習時の患者への倫理的配慮を励行しているか。 ・実習時のインシデント・アクシデント等を分析し学生指導に活かしているか。 ・学生による授業評価及び教員の自己評価を実施し、授業の改善に努めているか。	

評価点：よい5　ややよい4　普通3　やや不十分2　不十分1

・卒業生は評価項目 3.4～3.6 で評価し、ディプロマポリシー到達について概ね能力が身についたと感じていた。令和 7 年度は卒業年次生に 8 月と 3 月にカリキュラム評価を実施した。8 月の結果より 3 月の結果が高く、成長を実感していることが明らかとなった。これは、臨床で経験を通し、自らが成長できていると実感している結果であると考える。しかし卒後 1 年経過すると、案内を数回送ってもなかなか回答が得られず、十分な回答数は得られなかったため、次年度は周知の仕方について検討を行う。
・授業内容や方法については科目終了後、学生による授業評価を実施し、担当者が授業後総括を行い、必要時学生にフィードバックを行っている。
・効果的な授業運営のため、2 か月前には時間割を配布している。校務支援システムの掲示板にアップし、ペーパーレス化を図った。また学生は携帯などでいつでも確認ができるようになった。
・臨床実習においては指導者と担当教員が実習開始前に実習内容などについて細かな調整を行い、効果的な指導となるよう協力体制を整えている。臨床連絡会議では、がやがや会議を開催し、最近の学生の傾向や指導上の留意点などを意見交換するなど、連携をはかり学生個々に応じた指導につなげている。
・実習時のインシデントについては 3 月に集計し要因・分析を行い教員全体で学習会を行っている。

3）入学・卒業対策　　資料 19～24

評　価　項　目	評価点
・より多くの応募者を確保することに努めているか。 ・国家試験の合格者が 100%となるよう教職員一丸となって取り組んでいるか。 ・質の高い卒業生を多く輩出する為の努力を行っているか。 ・卒業生の支援を行っているか。 ・卒業生の県内就職率を高めるように努めているか。	4．6 (R6 年度 4.3)

評価点：よい5　ややよい4　普通3　やや不十分2　不十分1

・前年度と比較し 4.3 から 4.6 へ上昇している。
・進路ガイダンスは昨年度を上回る 19 会場に参加をし、当校の PR を行った。母校訪問は直接訪問及び郵送を合わせ、10 校に実施した。母校訪問では学校生活の実際を伝え、オープンキャンパスの参加も促すなど、効果的なアピールとなり、オープンキャンパスでは 75 名の参加がみられた。また、近隣の中学校からも職業講話の依頼があり、助産師による学校の母性の新生児モデル人形を使用した体験授業も行った。
・国家試験の指導体制は担当制をとり、成績不振の学生には個別に対応した。また精神的に不安定な学生にはじっくり話を聞くなど、丁寧な関わりを行っている。令和 7 年度においても合格率 100%が維持できた。
・卒業生に対しては 8 月に卒業生交流会を実施し、7 名の参加があった。交流後は今後のモチベーションにつながるといった意見があった。交流会以外にも卒業生が来校し、職員に近況を伝えに来る姿もみられている。
・令和 7 年度は就職希望者の県内就業率 100%であった。昨年と比較し、大幅に上昇している。県内在住の学生が多く、地元志向の傾向にあること、主たる実習病院への就職希望者が多かったことも影響していると考える。引き続き、県内就業の看護師を養成するという学校の使命を学生に伝えていく。

4）学生生活への支援

資料24～31

評　価　項　目	評価点
・進学、就職などの進路に関して学生の相談に十分応じているか。 ・経済的、精神的側面からの学業継続支援体制が整い、効果的に活用しているか。 ・学生の身体的側面の健康確保に努めているか。 ・サークル活動などの学生の自主的な活動を支援しているか。	３．８ (R6 年度 3.8)

評価点：よい５　ややよい４　普通３　やや不十分２　不十分１

・進学・就職支援については模擬面接の実施やエントリーシートの記載方法など、体験的に支援をしている。また、進学先や就職先の情報提供についても学生玄関入口に配架し、学生が手に取りやすいように配慮している。夏季休業を利用して、インターンシップへの参加を促し、1 年次から進路を考えていくように指導しており、概ねの学生が１ヶ所以上に参加し早い段階から将来を見据えて考えるようにしている。
・学業継続支援体制の一環として奨学金については適時、情報提供を行っている。令和６年度から始まった岐阜県看護学生修学資金貸付制度の案内を行い、１名の希望者があり手続きを行った。
・健康状態については日々、Logo フォームを用いて確認している。ストレスチェックを年３回実施。結果についてはスクールカウンセラーと連携し、希死念慮など気になる学生についてはカウンセリングを勧めた。また学生の対応についてもカウンセラーにアドバイスをもらい、面談を実施するなど丁寧に精神的支援を行った。
・意見箱への投書は１件と減少している。学生と教員がコミュニケーションを多くとる姿がみられている。

5）教職員の育成

資料33～37

評　価　項　目	評価点
・学生の抱えている課題をふまえた職場内研修を行っているか。 ・学会又は研修会に参加した成果を他の教員に還元する仕組みがあるか。 ・教員が計画的に臨床実務研修に参加できるよう支援しているか。 ・教員の授業を他の教員が参観・講評できる体制を整えているか。 ・教員が計画的に研究調査活動を行えるよう体制を整えているか	４．３ (R6 年度 4.0)

評価点：よい５　ややよい４　普通３　やや不十分２　不十分１

・昨年度 4.0 から 4.3 に上昇している。
・4 月にゲートキーパー研修、12 月にハラスメント防止に関する研修を県立３看護専門学校をリモートでつなぎ実施した。また、実習指導時の好事例、困難事例について学習会を実施し実習指導に活かした。
・実習時は毎週ミーティングを行い、指導困難な学生への指導方法や、対応について意見交換を行っており、教務主任・実習調整者が実習指導にあたるなど、複数の教員で関わっており、担当教員が不安なく指導にあたれるようにしている。
・学会や研修会に一人１回以上参加し、学びの成果について教務会で伝達講習を実施した。教員間での学び合う姿勢が身についてきている。
・実務研修（短期）を２名実施し、臨床での実務研修を自身の知識の更新や現場の実際の看護実践を教育に活かすことができた。
・授業研究委員が中心となり、多職種連携教育の実際について東濃地区の「看護実践報告会」で発表を行い、臨床のスタッフに看護基礎教育の実際について理解してもらうきっかけとなった。次年度も当校の取り組みについて発表予定である。この様な機会は、教員の資質向上やモチベーションアップにもつながっている。
・教員がお互いの授業を参観し、その後意見交換を行う授業参観を一人一回実施した。客観的に意見をもらい効果的な教授について考える機会となっている。

6）管理運営・財政

資料6・12・18・26・36～41

評　価　項　目	評価点
・予算計画・年間行事計画を策定し適正な予算の執行・進行管理を行っているか。 ・学生や教職員等の人権・個人情報について十分な対策がなされているか。また、学生、教職員に対しそれらの徹底を図っているか。 ・災害などの非常時の危機管理体制が整備されているか。また、防犯・交通安全意識の向上に努めているか。 ・学校運営に学生の意見が反映されるように努めているか。	４．６ (R6 年度 4.4)

評価点：よい5　ややよい4　普通3　やや不十分2　不十分1

・年間計画に基づき、計画的に予算・事業執行を行っている。
・学校が保有する個人情報については、「岐阜県情報セキュリティ対策基準」に従い管理している。
・個人情報保護は、毎回の実習開始時に学生へ繰り返しの指導を行うとともに、実習の記録やメモ帳の管理については、詳細なルールを決め、それに従い管理している。現在問題となっているソーシャルメディア利用の注意点については、学校生活案内に明記し、年度初めのガイダンス、各実習前のオリエンテーションなどで指導を行っている。また4月に1･2年生を対象に岐阜県警の警察官を招いて、サイバーセキュリティ研修を行っており、SNS の適切な利用、個人情報保護について学んでいる。
・障害学生支援規程の整備がなされ、規定に基づいて現在1名の学生の支援計画を運用中である。定期的に学生と支援の内容を細かく調整し、教員、外部の講師・指導者にも説明を行いながら対応しており、スムーズに対応できており、学生から不安なく学校生活が送れているという言葉が聞かれている。。
・災害の備蓄品に関しては学生、教員ともに各自配備している。災害対策として教務主任が中心となり、水害についての防災講義を行い、職員の防災意識向上につながった。
・防犯・交通安全意識の向上については職員会議で職場研修を行っている。
・学生生活実態調査を12月に実施し、学校の設備や備品の更新を望む声が多く上がった。限られた予算の中ではあるが、引き続き総務課と連携し、計画的に回収ができるよう予算要求を行っていく。

7）施設設備

資料41～42

評　価　項　目	評価点
・施設・設備の安心・安全が確保されているとともに障がい者の利用に配慮された構造になっているか。 ・教育目標達成に必要な施設設備及び教材が整っているか。また、学生の自主的な学習の場が確保されているか。 ・学生のための福利厚生施設・設備は整っているか。 ・図書室は利用しやすく学生に十分活用されているか。 ・実習室は学生数に応じたスペースが確保され、必要な備品設備が整い十分にその機能を果たしているか。	３．５ (R6 年度 3.5)

評価点：よい5　ややよい4　普通3　やや不十分2　不十分1

・ノートパソコン１台(14 万)、タブレット（16 万)、OfficeHome ソフト６台（16 万）を購入した。
・温室効果ガス排出削減、及び電気代の節約を目的に、全学年の教室の電気をLED 化することができた。
・視聴覚教室の整備を行い、学生がいつでも視聴覚教材での学習ができるように整え、学習できるように個人学習スペースの確保を行った結果、自己学習に利用する姿もみられている。
・令和7年度の新刊図書の購入は23タイトル、40冊であった。図書本返却の呼びかけを徹底し不明図書が減少した。

8）広報・社会貢献、地域活動

資料 43～44

評　価　項　目	評価点
・学校の存在を周知するためホームページ、携帯サイトをはじめとした積極的な広報活動をしているか。 ・地域社会の一員として、地域への広報･貢献･奉仕活動・連携の工夫を行っているか。	３．３ (R6 年度 3.6)

評価点：よい 5　ややよい 4　普通 3　やや不十分 2　不十分 1

・前年度と比較し 0.3 ポイント下降している。
・ホームページについては、オープンキャンパスや募集要項を掲載した。また、ホームページの形式を変更し、トップページの掲載一覧から各カテゴリーの情報へリンクできるようにしているが、定期的な更新が十分にされているとはいえず、目を引くものであるとは言えない部分もあり今後の課題である。
・多治見市内の中学校に向けて職業講話の出前授業を案内し、小泉中学校より講話の依頼があった。また坂下高校の教員・学生が授業風景を見学にくるなど、本校の認知を高める意義だけでなく、看護職に対する認知を地域に向けて広める機会となった。
・「生涯学習入門」の科目を通して、地域でのボランティア活動を行い、学びを意見交換している。このボランティアをきっかけとして、継続して地域に関わっている学生もみられた。

4　総合的な評価

本年度に定めた組織目標は、本報告書に記載したとおり概ね実施できており、目標達成できていると評価する。また、評価項目の達成及び取り組み状況は、8 カテゴリー中、4 カテゴリーは評点がアップした。また平均評点についての変化は無かった。これにより適切に実施していると評価する。

― 以 上 ―